



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより 第14巻3号

(季刊誌)

2012年8月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉 <http://www.nishi-ganka.or.jp>

角膜クロスリンクング(CXL) リボフラビン紫外線治療

円錐角膜・角膜拡張症・角膜水疱症と診断された方に

角膜クロスリンクングとは 2003 年頃より世界各国で普及している【円錐角膜・角膜拡張症・角膜水疱症】の進行を抑える治療法です。現在海外では 10 万件以上施行されています。

クロスリンクングの仕組み

角膜実質のコラーゲン組織にリボフラビン点眼液を浸透させ、そこに長波長紫外線を照射します。するとコラーゲン間の架け橋が出来ます。図のように隣接するコラーゲン繊維の間にある架け橋（クロスリンクング）を増やすことで角膜実質の強度を高める事ができます。

クロスリンクング前 → クロスリンクング後



適応疾患【円錐角膜・角膜拡張症・角膜水疱症】

円錐角膜・角膜拡張症とも、一旦発症してしまうと薬剤などで進行を止めることは出来ず、これまでは進行してコンタクトレンズ装用が容易でなくなった時に初めて角膜移植をするしか治療法がないとされていました。角膜クロスリンクングは角膜の実質強度を強め、円錐角膜・角膜拡張症の進行を停止させることを目的とした治療法です。角膜移植が必要となる前の眼鏡やコンタクトレンズで日常生活に必要な視力が得られている段階で進行を停止させることができれば、角膜移植を受けなくても済むようになる可能性があります。

角膜水疱症に関しても、進行後は角膜移植が唯一の治療法でしたが角膜クロスリンクングによりその進行を抑えることが出来る可能性があります。水分の貯留したふやけた角膜は本来の透明さが保てず混濁してきますが、角膜クロスリンクングにより白濁を減少させるという報告もされています。

詳しくは担当医またはスタッフまでご相談ください。

多焦点(遠近両用)眼内レンズ

当院では、白内障手術に、従来の単焦点眼内レンズに加えて、先進医療に認定されている最新の多焦点(遠近両用)眼内レンズを導入しております。多焦点眼内レンズは近くにも遠くにもピントが合う遠近両用の眼内レンズです。通常の単焦点眼内レンズと比べ、白内障手術後の生活におけるメガネの必要性が大きく減少します。

多焦点眼内レンズの事をもっと知りたい方は当院スタッフまでお問い合わせ下さい。適応・費用の点も含め、ご説明致します(ご関心のある方にはビデオ「白内障手術と眼内レンズ(約 10 分)」もご鑑賞いただけます)。

追加挿入型 多焦点眼内レンズ Add-On

既に白内障手術を受けられ、従来の単焦点眼内レンズを挿入されている眼に、さらにもう1枚 多焦点眼内レンズ Add-On(ドイツ製)を挿入し、遠方近方両方に焦点が合うようにできます。

術前術後の診察・検査・手術代(レンズ代含む) Add-On に関わる治療は全て自費診療となります。詳しくは担当医またはスタッフまでご相談ください。

特別外来

角膜外来

第2 金曜日(午後):大阪大学医学部附属病院眼科 前田直之 教授による「角膜外来」診療を行っております。「ドライアイ」「円錐角膜」「アトピー角膜感染症」「重篤な眼表面疾患」「遺伝性角膜疾患」など角膜や結膜のあらゆる疾患に取り組んでおります。

ぶどう膜炎外来

第4 水曜日(午後):東京医科歯科大学眼科 望月 學 教授による「ぶどう膜炎外来」診療を行っております。ぶどう膜炎とは眼内における炎症性疾患すべてのことを「ぶどう膜炎=(最近では)内眼炎」と呼びます。PCR による遺伝子レベルの原因検査も迅速にできるようになりました。原因に応じた、より適確な治療が可能です。原因不明な再燃を繰り返す[ぶどう膜炎]の患者さんがおられましたら御紹介ください。